HCLI Officers Club

パントマイム

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ヨルムンガンド発動後の世界。

原作とは違うＩＦ作品

武器：持たない売らない使わない。

死者：生存

ココ達の海上レストラン。

目次

私達のレストラン。 ―――― 1
ストアパート ―――― 8

私達のレストラン。

「ったくよぉ！んだよこのチップの少なさわよぉ！」

「ルツ、お前の接客がわりーんだよ。」

「んだとぉ!?」

「俺は今日はこんなもんだぜ？」

「オメーのやり方はきたねーんだよアール！」

「ハイハイー♪喧嘩しないでテーブルリセットちゃっちゃとやるー☆」

「ココ、明日パーティ入ってるんでしょ？」

「そうだよーヨナ、一件ね。」

「ならワイリとマオに言っておいた方がいいよ。」

「ココさん、ラウンドテーブルは６つで大丈夫ですか？」

「オッケーだよワイリ。」

「マオ、６つ用意だ。」

「了解です。お？またルツがぼやいてますなｗ」

「オイオイ、早いところオーダー入れろルツ。チャコ掃除できねーだろが。」

「それじゃあおっさん！ポークチョップ！三枚！」

「チッ、あいよ。」

「ココ、そろそろクローズにしましょうか。」

「そーだねぇ、もう時間だし。みんなー☆とりあえずご飯にしよっかー♪」

〝へーーーーイ〟

ココの一声でお店を閉め皆で休憩です。私はお店の看板の電気を落としてキッチンへエンプロイミールを取りに。

「アネゴ、出来てるよ。」

「ありがとうトージョ。」

「ったくまーたルツのヤツオーダーギリギリに頼みやがって。」

「トージョー!俺の出来てる♪?」

「ポークチョップとか時間かかんの毎回頼んでんじゃねーって。まだだよ、芋でも食ってろ、ほら。」

「フー♪ベイク芋頂きー♪」

鬱陶しく思いながらもルツのエンプロイミールを作るトージョ、楽しそう。

フフ、私もココの所行かなきゃ♪

「バルメ♪お疲れ～☆」

「コ、ココォ？後ろから揉むのは無しですよぉ☆」

〃ウヒョー☆〃もぅ、ココったらこんなところで・・・　☆

「ココ、ご一緒しましょう☆」

「フフーフ☆もちろん♪」

「ヨナくんどうだったよ、今日は。」

「レーム。一件、オーダー取り間違えた。」

「ハハ、いちいち気にするな。客は怒ってなかったんだろ？」

「うん、平気。」

「ほれ、持ってきな。」

「ありがとうレーム。」

「ヨナ、気にすんな。ルツなんか今日三回もオーダー間違えてんだからw」

「あっ！トージョ、テメェ！言うなって！」

「ルツはヨナくんを見習って一度キャスパーさんの所で研修を受けるべきですｗ」

「言うぜアネゴォ～！」

ＨＣＬＩ　Ｏｆｆｉｃｅｒｓ　Ｃｌｕｂ
ここは武器の無い世界。
キッチンスタッフはレーム、トージョ。
ウェイタースタッフはルツ、アール、ヨナくんに私。
ジャニタースタッフはワイリにマオ。
ストアスタッフにはウゴ。
そしてホステス兼マネージメントは私の愛するココ。

ヨルムンガンド発動後、ココの想いは世界に届き私達は平穏な日々を手に入れまし

た。

「ココどーするよ？」

「そーだねぇ、レストランでもやってみようか？」

ココの一声で私達は海上レストランを営む事に。

姉妹店にはキャスパーさんのＨＣＬＩ　Ｅｎｌｉｓｔｅｄ　Ｃｌｕｂがあり相変わらず行き来する仲です。

他にも変わったことは色々ありますがそれはまたおいおいお話することにしましょう。

だってこれからココとお食事タイムなのですから・・・　☆

「コ～コ～♪待ってくだ～い☆」

ストアパート

「これ、またお嬢の個人的なオーダーじゃないかぁ…？こんなに酒ばっか…お嬢は酒癖悪いから…はぁ…」

「ウゴー？オーダーシート見てくれたー？」

「お、お嬢っ。い、今目を通してる所です。」

「おっそれは感心感心♪それじゃあ宜しくね♪」

ふぅ…まぁ仕方ない。俺の仕事はストアスタッフだし。
仕事内容は主に表で使うの食材と備品の発注と管理だ。
食材関係はレームさん。
クラブ内の備品関係はワイリさん。
ウェイトスタッフ陣からは細かい物の補充等。

各々必要なものや足りないものがオーダーシートに書き込まれ俺に回ってきてそれを仕入、管理、保管する。
その中でも別口でお嬢からはなにかと酒のオーダーシートが来るんだよなぁ…
このクラブは軍施設の中にある将校クラブって言ったら分かりやすいか。
基地があって軍人が居てその家族や民間人も居る。お嬢の手によって空は退行したけど軍そのものは形として残っている。治安維持って所か。
ここで俺達が働いている経緯はフロイドさん絡みで詳しい内容はココさんしか知らないんだよな。
でも俺なんかは元々お嬢の専属ドライバーだったわけだし、この仕事がお似合いと今は思ってる。
話が長くなっちまった。
そろそろ仕入れの時間だ。明日はパーティーらしいからプライムリブがたくさん要るみたいだしな。
お嬢の酒の話は皆には内緒にしねーと…　特にルツ辺りに知れたらうるさそうだ…

「コレから仕入れかい？」

「マオ、あぁ。明日パーティーあるみたいでな。レームさんから肉が必要だと。」

「なるほど。それにしてもダットサンに乗る姿が様になってきているね。フォルクスワーゲンより乗り心地がいいんじゃないか？」

「はは、あれはお嬢の専属ドライバー時代の宝物さ。それじゃあ行ってくる。」

マオに見送られ仕入れ先の大型ショペットに到着と。

さて、ちゃっちゃと買い出し済ませてチョコでも食べながらゲームでもして…　って…

ん？アレは…

「ボスー、ボスー？」

「リリアーヌ。ボスではありませんよ。」

「へへ、ドミニクさんだったね。ウシュシュシュ。」

「そうですよ。我々はやっとここまで潜り込めたのですから。」

「グレゴもパッと見わかんないしね♪ウシュシュシュ♪」

「覆面被ってたときはなかなか声が通らなかった。」

「爽やかな印象は大事ですよグレゴワール。」

「ドミニクさんもボス時代に比べて爽やかです。」

「それはありがとうございます。では行きますよ。」

あいつら…　しかもあの覆面野郎。誰だかわかんねぇ…
これはココさんに言うべきなのか…　しかもほんとにレストラン始めたのか…？

まぁ、とにかく買い出しだ。

あいつらが彷徨いてた場所、確実に食材エリアだ…　間違いねぇ。
これは単独で調べて探るしかないな…　皆に迷惑かけちまうかもしれないし。
次から買い出しの時は注意しておくか。